

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

口永良部島では、新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震が発生しました。火山活動が高まっている可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

新岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況（図1～3）

口永良部島で18日21時07分に新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震が発生しました。山麓で体に感じるものではありませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過していましたが、18日02時～08時にかけて新岳の西側山麓のやや深い場所が震源と推定される火山性地震が8回発生しました。新岳火口付近の地震を含めると18日の地震回数は17回となり、火山性地震は多い状態となっています。

新岳火口では、2月3日以降、噴火は観測されていませんが、火山活動が高まっている可能性があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び屋久島町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平29情使、第798号)。

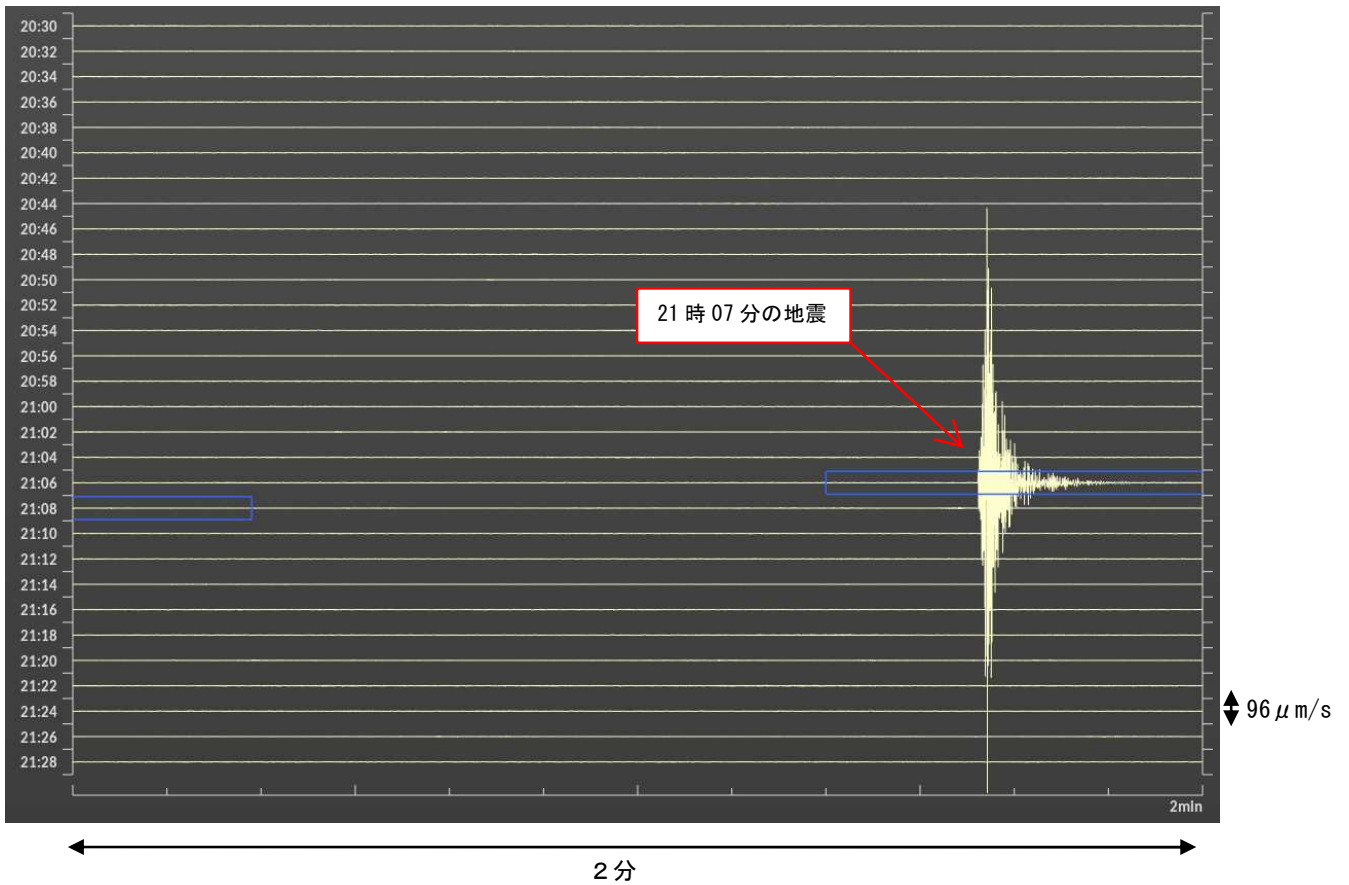


図1 口永良部島 地震波形（古岳南山麓観測点：上下動 10月18日20時30分～21時30分）
18日21時07分に新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな火山性地震が発生しました。

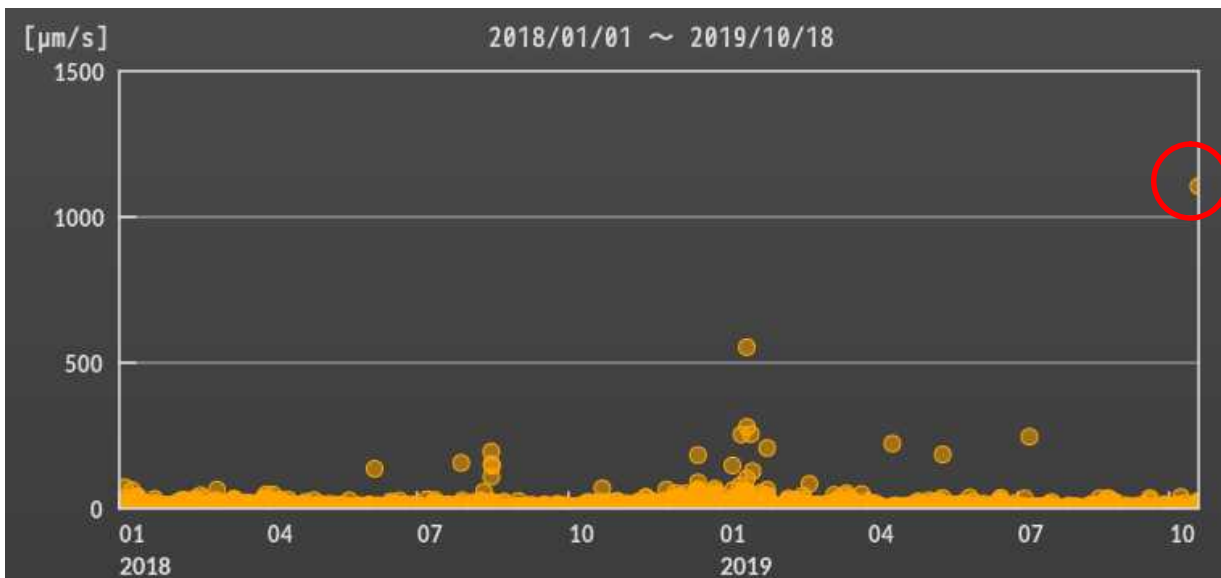


図2 口永良部島 最大振幅時系列（古岳南山麓観測点：上下動 2018年1月～2019年10月18日）
18日21時07分の火山性地震の最大振幅は1105 $\mu\text{m/s}$ でした（赤丸）。

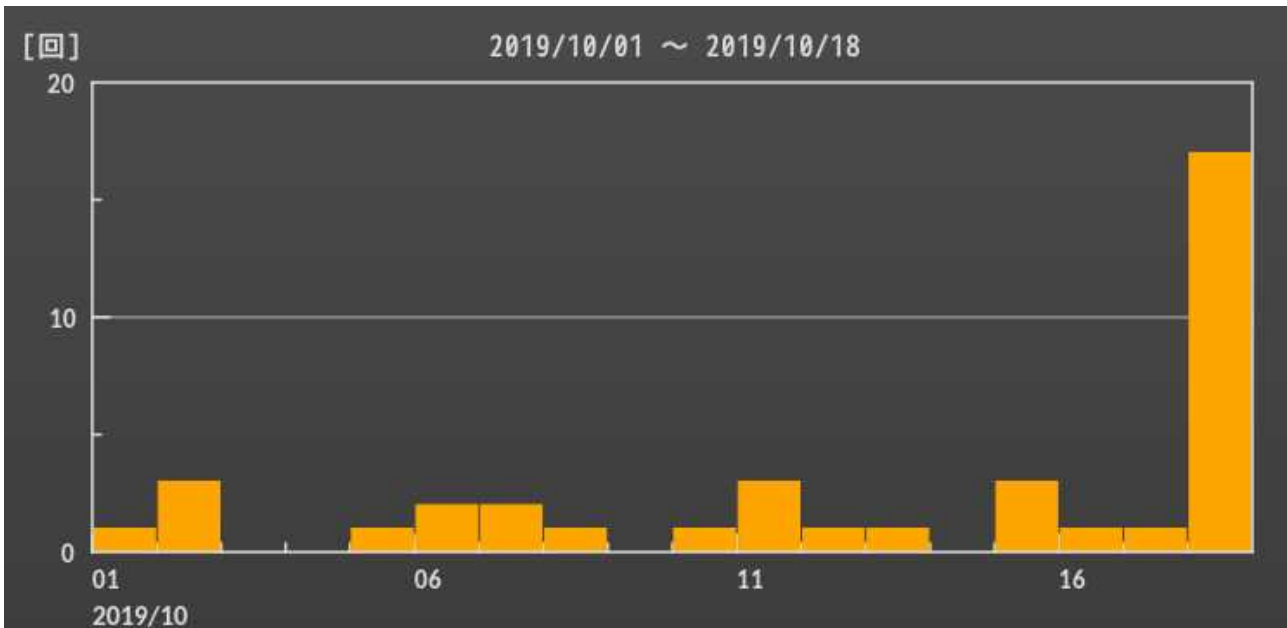


図3 口永良部島 地震日回数 (2019年10月1日~18日)

口永良部島では、火山性地震は少ない状態で経過していましたが、18日02時~08時にかけて新岳の西側山麓のやや深い場所が震源と推定される火山性地震が8回発生しました。新岳火口付近の地震を含めると18日の地震回数は17回となり、火山性地震は多い状態となっています。

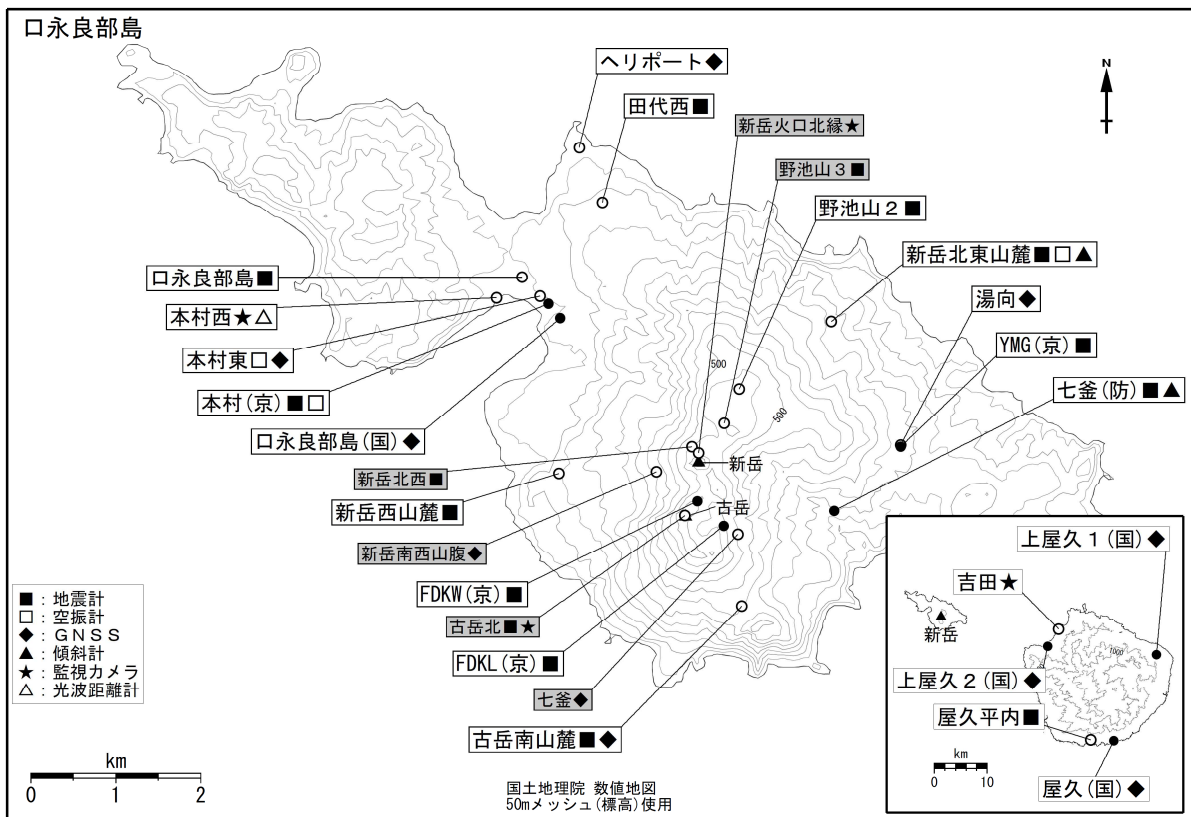


図4 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国): 国土地理院、(京): 京都大学、(防): 防災科学技術研究所

図中の灰色の観測点名は、噴火等により長期障害となっている観測点を示しています。